

科目名			担当者	
医学英語Ⅱ			馬内 里美	非 常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・通年	講義・演習	60 時間	必修 2 単位	無

授業の目的 と 到達目標	<ul style="list-style-type: none">・医療に関する語彙力の養成・読解に必要な文法や表現の理解・医療や医学に関する文章の読解力の養成 到達目標 <ul style="list-style-type: none">・医学英語の意味を把握できる・医療に関する一般誌の記事を読むことができる			
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none">・医療現場での会話の聴解練習と表現学習・医療または医学に関する文章を訳読に頼らず必要な情報を探し出す・正確に英文を読み取る練習・これまでに行ってきた医学用語の体系的な学習を活かして、語彙力を増強する。			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
第1週	英語Ⅰ復習	第16週	会話（Ⅱ型糖尿病）読解準備	
第2週	会話（初診受付）読解準備	第17週	読解（Ⅱ型糖尿病）	
第3週	読解（ポリオとワクチン接種）	第18週	会話（高コレステロール値）読解準備	
第4週	会話（初診）読解準備	第19週	読解（動脈疾患）	
第5週	読解（処方箋・薬の服用法）	第20週	会話（インフルエンザ）読解準備	
第6週	会話（片頭痛）読解準備	第21週	読解（米国の健康保険）	
第7週	読解（鎮痛剤）	第22週	会話（花粉症）読解準備	
第8週	会話（内科診察）読解準備	第23週	読解（季節アレルギー）	
第9週	読解（薬の説明文）	第24週	会話（COVID19）読解準備	
第10週	会話（内視鏡検査）読解準備	第25週	読解（COVID19 パンデミック）	
第11週	読解（結腸内視鏡検査）	第26週	会話（胸やけ）読解準備	
第12週	会話（呼吸器系の検査）読解準備	第27週	読解（胸やけ）	
第13週	読解（SARS）	第28週	会話（閉経の症状）読解準備	
第14種	Review Test（リスニング・語彙）	第29週	読解（閉経とホルモン療法）	
第15週	Review Test（読解）解説	第30週	Review Test（リスニング・語彙）	
成績評価方法	各課のエクササイズ 60%（語彙・英作文） 期末テスト 40%（まとめ・読解実力テスト）			
教科書	English for Medicine-Revised Edition 西原俊明・西原真弓・Carey Benom、金星堂、2022年			
参考書	随時、プリント配布			
備考	専門用語も調べられる程度の英和辞書を持参すること			

科目名			担当者	
解剖生理学実習			加藤 徳子	非 常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・前期	実習	45 時間	必修 1 単位	無

授業の目的 と 到達目標	<p>視能訓練士として人体の構造及び機能を観察や体験を通してよりよく理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> 対象をよく観察できる 体験を通して機能を理解できる
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> 人体模型のスケッチ 組織の顕微鏡観察 血圧の測定
<p>【各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>第 1 週 実習オリエンテーション、顕微鏡の使用説明 組織の事前学習</p> <p>第 2 週 組織の観察 1</p> <p>第 3 週 組織の観察 2 検討会</p> <p>第 4 週 解剖模型の事前学習・解剖模型のスケッチ 1</p> <p>第 5 週 解剖模型のスケッチ 2</p> <p>第 6 週 検討会</p> <p>第 7 週 血圧の事前学習・血圧の測定 1</p> <p>第 8 週 血圧の測定 2</p> <p>第 9 週 検討会</p> <p>第 10 週 最大酸素摂取量の事前学習・最大酸素摂取量の測定</p> <p>第 11 週 最大酸素摂取量の測定</p> <p>第 12 週 検討会</p> <p>第 13 週 感覚</p> <p>第 14 週 検討会</p> <p>第 15 週 試験</p>	
成績評価方法	定期試験(70%)、レポート(30%)等で評価
教科書	特に指定はない
参考書	授業で適宜指示、プリント配布
備考	

科目名			担当者	
看護・保健概論			相澤 洋子	非 常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験
2 年次・前期	講義	30 時間	必修 1 単位	有

授業の目的 と 到達目標	看護・保健について学び、医療チームの一員として、他職種と連携できるようになる。 ※看護師として、大学病院等で実務経験のある教員がチーム医療、他職種連携、医療人としての基礎分野について講義する。
授業の概要 達成課題	看護という人間科学を通して人間関係の大切さを確認し、医療職として患者や他職種とより良い関係性の構築を目指すことができるようになる。
【各回のテーマ・内容・授業方法】 第 1 週 専門職としての基準 第 2 週 看護活動の本質 ①看護を考える 第 3 週 看護活動の本質 ②人間にとって健康とは 第 4 週 歴史に見る看護の誕生と発展 第 5 週 保健医療福祉システムについて 第 6 週 看護と倫理 視能訓練士と倫理 第 7 週 看護の対象 第 8 週 医療安全対策 アクシデント・インシデント 感染対策 第 9 週 看護の実践方法としての看護過程 第 10 週 観察・記録 SOAP について 第 11 週 コミュニケーションについて 第 12 週 高齢化社会の理解 第 13 週 認知症の理解 認知症サポーター養成講座 第 14 週 現代の保健医療福祉活動における看護の特徴と課題 第 15 週 視能訓練士と看護	
成績評価方法	定期試験（100％）で評価を行う。
教科書	視能学 第3版（文光堂）
参考書	看護学概論（メヂカルフレンド社） 基礎看護学 ¹ （金原出版）
備考	

科目名			担当者	
精神衛生学			釣舟 晴一	非 常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験
2 年次・後期	講義	30 時間	必修 2 単位	有

授業の目的 と 到達目標	<p>心の健康を理解し、患者が心身の健康を回復する過程を援助する際に必要な知識を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の精神・身体を健康に維持することが出来る ・患者の精神状態を理解し、優しく接することが出来る <p>※障がい者施設で勤務している教員が、精神衛生について講義する。</p>
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> ・健康に置いて身体と精神の関連を理解する ・精神障害を理解する ・精神障害の改善法を理解する ・メンタルヘルスの考え方を理解する
<p>【各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>第 1 週 精神衛生とは メンタルヘルス①</p> <p>第 2 週 精神衛生とは メンタルヘルス② 周産期のメンタルヘルス</p> <p>第 3 週 子ども時代のメンタルヘルス</p> <p>第 4 週 思春期・青年期のメンタルヘルス</p> <p>第 5 週 おとなの男性と女性のメンタルヘルス</p> <p>第 6 週 老年期のメンタルヘルス</p> <p>第 7 週 ストレスとは</p> <p>第 8 週 働く人のストレスとメンタルヘルス</p> <p>第 9 週 ストレスコーピングについて</p> <p>第 10 週 心の病とは</p> <p>第 11 週 精神疾患と脳の機能変調</p> <p>第 12 週 不安とパーソナリティ</p> <p>第 13 週 ストレス反応について</p> <p>第 14 週 アルコール依存と薬物乱用</p> <p>第 15 週 まとめ</p>	
成績評価方法	定期試験(90%)、レポート(10%)等で評価する
教科書	特に指定しない
参考書	授業で適宜指示、プリント配布
備考	

科目名			担当者	
臨床医学Ⅰ			吉田 清香 相澤 康弘 首藤 和弘	非 常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験
2 年次・前期	講義	15 時間	必修 1 単位	有

授業の目的 と 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・斜視手術の種類・特徴を理解する。 ・安全な医療現場を整え、チーム医療を安全に行うための知識を学ぶ ・視能訓練士として必要な全身疾患とその成因を学ぶ ※眼科医として実務経験のある教員が、斜視手術について講義する。 臨床工学技士として実務経験のある教員が、医療安全について講義する。
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> ・斜視手術について学び、症例にあった術式を考えられるようにしていく ・医療の安全を考えて検査できる知識を身につける ・全身疾患と眼疾患を結び付け、検査を正確にできる知識・技術を身につける
【各回のテーマ・内容・授業方法】 第 1 週 斜視手術（共同性斜視）① 第 2 週 斜視手術（共同性斜視）② 第 3 週 斜視手術（麻痺性斜視）① 第 4 週 斜視手術（麻痺性斜視）② 第 5 週 初診から斜視手術までの流れ 第 6 週 斜視手術の実際 症例提示① 第 7 週 斜視手術の実際 症例提示② 第 8 週 医療の安全① 第 9 週 医療の安全② 第 10 週 医療の安全③ 第 11 週 医療の安全④ 第 12 週 疾患の成因、高次脳機能障害① 第 13 週 疾患の成因、高次脳機能障害② 第 14 週 疾患の成因、高次脳機能障害③ 第 15 週 疾患の成因、高次脳機能障害④	
成績評価方法	定期試験（100％）
教科書	視能矯正学改訂第3版 / 丸尾 敏夫 金原出版 視能学第3版 / 小林義治・松岡久美子・臼井千恵・岡真由美 文光堂 現代の眼科学改訂13版 / 所 敬 金原出版
参考書	授業で適宜指示
備考	

科目名			担当者	
臨床医学Ⅱ			村田 祐二	非 常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験
2年次・後期	講義	15 時間	必修 1 単位	

授業の目的 と 到達目標	視能矯正の対象となる小児の発達・発育と疾病について学び、小児眼科学の理解を深める。 ・乳幼児を含む小児の発達を理解し、検査・訓練の際に適切な対応ができる。 ・眼疾患に関わる、さまざまな小児疾患を知り、臨床時に対応する知識を身につける。 ・法定伝染病等学校に関わる疾患、学校健診について知る。
授業の概要 達成 課 題	小児の正常な発達・発育からその異常、疾患について解説し、眼疾患を伴う先天疾患、感染症へとつなぐ。学校伝染病・検診から主要な小児疾患についてまた、療育・支援までを解説する。
【各回のテーマ・内容・授業方法】 第 1 週 小児期の発達・保健 第 2 週 先天異常（代謝異常・染色体異常・奇形） 第 3 週 ヒトの染色体とその分析法 第 4 週 新生児疾患 第 5 週 栄養性疾患 第 6 週 代謝疾患 第 7 週 内分泌疾患・消化器疾患 第 8 週 感染性疾患 第 9 週 呼吸器疾患・血液疾患・小児がん・循環器疾患・アレルギー性疾患 第 10 週 自己免疫疾患 第 11 週 神経疾患・筋疾患・運動器疾患 第 12 週 心身症・腎疾患・泌尿器疾患 第 13 週 寄生虫 第 14 週 緊急時の ABC 第 15 週 まとめ	
成績評価方法	定期試験（80%）、レポート（20%）等で評価する。
教 科 書	最新育児小児病学 改訂 7 版 黒田泰弘 南江堂
参 考 書	図書館内にある小児科学の本を適宜指示
備 考	

科目名			担当者	
公衆衛生学			吉田 裕人	非 常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験
2 年次・後期	講義	30 時間	必修 2 単位	無

授業の目的 と 到達目標	集団を対象とした健康の保持増進、疾病予防と健康管理について学習し、公衆衛生学の意義について考え、自己の健康を維持する。 さらには社会全体の健康及び健康維持について考える。		
授業の概要 達成課題	的確な健康情報を取捨選択するスキルを身に付け、主体的かつ意識的に行動するための具体的なあり方を学習していく。 併せて、視能訓練士国家試験の合格を目標に、公衆衛生分野の知識を身につける。		
【各回のテーマ・内容・授業方法】			
第1週	衛生学・公衆衛生学序論	公衆衛生の定義	
第2週	保健統計	保健統計からみた日本の少子高齢化の現状など	
第3週	疫学	疫学とは？疫学を活用した保健行政など	
第4週	疾病予防と健康管理	一次予防～三次予防とは？スクリーニングの理解	
第5週	主な疾病の予防	感染症の予防、生活習慣病の予防	
第6週	環境保健	大気、水などの衛生	
第7週	地域保健と保健行政	地域保健の必要性など	
第8週	母子保健	出生率の推移などの統計と我が国の母子保健事業の内容	
第9週	学校保健	子どもの体格・体力の推移と歯科保健	
第10週	産業保健	職業と健康の関係	
第11週	高齢者の保健・医療・介護	高齢化率の推移などの統計と我が国の高齢者保健事業の内容など	
第12週	精神保健	様々な精神障害の理解など	
第13週	国際保健医療	公衆衛生のグローバル化	
第14週	保健医療福祉の制度と法規	我が国の医療制度の仕組みなど	
第15週	まとめ		
成績評価方法	定期試験(90%)、出席状況(10%)等で評価		
教科書	シンプル衛生公衆衛生学 2024 (南江堂)		
参考書	適宜指示		
備考			

科目名			担当者	
社会福祉学			横山 英史	非 常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次 ・ 前期	演習	30 時間	必修 2 単位	無

授業の目的 と 到達目標	<p>本講義は、社会福祉をはじめて学ぶ学生を対象とし、社会福祉の基礎理解のために「社会福祉とは何か」、「社会福祉の範囲と対象」、「社会福祉の方法論」、「社会福祉の実施体制」といった内容について入門的な授業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉全般に関する基礎的な知識を習得できる。 ・医療現場において、福祉専門職と連携し、支援にあたる上での土台を培える。
授業の概要 達成課題	<p>現在、日本の社会は大きく変化しており、措置制度から契約制度、施設福祉サービスから地域福祉サービスへと、福祉の在り方も大きく変わっている。社会福祉の歴史的な意味や、時代の移り変わりとともにその考え方、制度がどう変化したのかを理解し、社会福祉の全体像をイメージできるよう講義を進めていく。その際、他人事としてではなく、少しでも自身に近づけて考えられるようになることを目指す。</p>
<p>【各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>第 1 週 社会福祉とは</p> <p>第 2 週 現代社会の変化と社会福祉</p> <p>第 3 週 社会福祉のあゆみ（日本）</p> <p>第 4 週 社会福祉のあゆみ（欧米）</p> <p>第 5 週 低所得者福祉</p> <p>第 6 週 子ども家庭福祉</p> <p>第 7 週 高齢者福祉</p> <p>第 8 週 障害者福祉①</p> <p>第 9 週 障害者福祉②</p> <p>第 10 週 地域福祉</p> <p>第 11 週 医療福祉</p> <p>第 12 週 社会福祉施設の役割</p> <p>第 13 週 ソーシャルワークの理解</p> <p>第 14 週 社会福祉を担う人々</p> <p>第 15 週 まとめ</p>	
成績評価方法	<p>期末試験（70%）</p> <p>小テスト・課題・レポート（30%）</p>
教科書	「コメディカルのための社会福祉概論」 鬼崎信好・本郷秀和 編 講談社
参考書	必要に応じて資料を配布する他、視聴覚教材等を使用する。
備考	

科目名			担当者	
保育学			本多 ふく代 森田 清美 大沼 百合子	非常勤 非常勤 非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・前期	講義	30 時間	必修 2 単位	有 (大沼 百合子)

授業の目的 と 到達目標	<p>保育学では子どもの心身の発育・発達の共通性と個別性を理解し、将来、乳幼児の患者を扱う医療従事者として愛情をもって子どもと接し、発達に応じて適切に対応できる能力を養うことを目的とする。</p> <p>・子どもの発育発達の過程を踏まえ、自身の成長を振り返りながら個々の子どもの成長に寄り添い、適切に対応する知識と態度を身に付ける。</p> <p>・保育実習に向けての心構えができる。</p> <p>※保育士の資格を有し、保育現場での業務経験のある教員が子ども理解や子どもとの具体的な関わり方について授業を担当する。</p>		
授業の概要 達成課題	<p>生命の誕生からヒトの発育過程について、特に乳幼児期の発育、発達の共通性と個別性をポイントとして説明する。それにより子ども一人ひとりを理解するための基礎的な知識を得ることができる。</p> <p>様々な保育事例を元に乳幼児の内面や大人の対応の仕方を学び、子ども理解を深める。また、実際に子どもの遊びを体験し、子どもの生活や遊びの重要性を具体的に理解する。</p>		
【各回のテーマ・内容・授業方法】			
第1週	本多：オリエンテーション	保育を学ぶことの重要性	テキスト p. 1～22
第2週	子どもの心身の発育・発達①	発育・発達の個別性と共通性	テキスト p. 22～31
第3週	子どもの心身の発育・発達②	身体発育	テキスト p. 31～40
第4週	子どもの心身の発育・発達③	精神発達	テキスト p. 40～51
第5週	子どもの心身の発育・発達と環境		テキスト p. 83～95
第6週	子どもの発育発達のまとめ		
第7週	森田：運動の発達	}	テキスト p. 95～106 教室変更あり
第8週	運動遊びの実態と課題		
第9週	運動遊びの役割		
第10週	運動遊びの指導		
第11週	大沼：保育を学ぶことの意味	ー子どもの存在・自分の成長から子供時代をみるー	p. 3・p. 130
第12週	子ども理解（保育者の役割）	ー子どもの発達について～子どもの事例から～	
第13週	子どもと環境	ー環境から学ぶ・遊べる環境・遊びと子ども・家庭環境と集団保育	
第14週		待合室などでの遊び	p. 106
第15週	保護者対応（親の思い）	ー子どもを育てるー	p. 57～
	保育実習に向けてー視能訓練士科での保育実習の意味・諸注意・子どもと触れ合うー		
成績評価方法	授業内の課題（レポート等）50%、試験 50%として評価する。 評価は3人の担当教員で行う（本多 40%、森田 30%、大沼 30%）。		
教科書	新保育学 改定5版／ 岡野雅子・松橋有子他 著／ 南山堂／ 2014年		
参考書	参考資料等はプリントして配布する。		
備考	本授業は分野ごとに担当教員が替わる形式で行う。授業内容により教室を変更することがある。 授業内で、小レポート（課題、授業の感想等）を書くことがある。		

科目名			担当者	
視能矯正学各論 I			庄司 正和	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・前期	講義	15 時間	必修 1 単位	有

授業の目的 と 到達目標	<p>1 年次の眼光学・生理光学を基礎に、屈折矯正の基礎・応用について学ぶ。特に眼鏡とコンタクトレンズによる屈折矯正の理解を深め、光学的視能矯正の選択・組立てを可能にする。臨床で実際に矯正ができる力を養う。</p> <p>※視能訓練士として、医療機関で実務経験のある教員が、屈折矯正について講義する。</p>
授業の概要 達成 課 題	<p>光学的視能矯正の内容を理解し、知識をもとに必要な計算ができるようにする。</p> <p>まず 1 年次の復習を確実に固め、症例に基づいた光学的視能矯正が考えられるようにする。その上で理論的に適切な計算方法を用いて、矯正ができる力を習得する。</p>
<p>【各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>第 1 週 生理光学・眼光学の復習</p> <p>第 2 週 屈折異常</p> <p>第 3 週 レンズの屈折力と結像位置①</p> <p>第 4 週 レンズの屈折力と結像位置②</p> <p>第 5 週 屈折矯正（眼鏡・コンタクトレンズ・その他）</p> <p>第 6 週 屈折矯正と頂間距離補正</p> <p>第 7 週 眼鏡①</p> <p>第 8 週 眼鏡②</p> <p>第 9 週 コンタクトレンズ①</p> <p>第 10 週 コンタクトレンズ②</p> <p>第 11 週 眼鏡合わせ（片眼矯正と両眼矯正）</p> <p>第 12 週 不同視・不等像視</p> <p>第 13 週 プリズム効果①</p> <p>第 14 週 プリズム効果②</p> <p>第 15 週 まとめ</p> <p>＊授業の進行状況により変更になる場合があります。</p>	
成績評価方法	・ 定期試験 100%
教 科 書	視能学（第 3 版／小林義治 他 編／文光堂） 屈折異常とその矯正（改訂第 7 版／所敬／金原出版）
参 考 書	理解を深めよう視力検査 屈折検査（松本富美子 他／金原出版） 視能学エキスパート 光学・眼鏡（第 2 版 松本富美子 他編／医学書院） 眼光学の基礎 /西信元嗣/金原出版
備 考	

科目名			担当者	
視能矯正学各論Ⅱ			安達 いづみ 佐藤 かおり	非 常 勤 常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験
2 年次・通年	講義	30 時間	必修 2 単位	有

授業の目的 と 到達目標	斜視の種類・特徴を理解する。 ・各斜視の特徴を説明できる。 ・検査原理、方法を理解し、検査法の選択ができる。 大型弱視鏡による両眼視機能検査の検査法を習得する AC/A 比の検査を習得し、斜視との関連を理解する ※視能訓練士として医療機関に勤務していた教員が斜視・斜視検査について講義する。
授業の概要 達成課題	まずは斜視の特徴を学ぶ。次に診断に必要な両眼視機能の検査法を学び、その方法を習得する。後期では前期で身に付けた知識をもとに、それぞれの症例にあった検査の進め方を考えられるようにしていく。

【各回のテーマ・内容・授業方法】

第 1 週	輻湊・AC/A 比について	第 16 週	大型弱視鏡 検査の実際②
第 2 週	斜視の定義	第 17 週	大型弱視鏡 両眼視異常がある場合①
第 3 週	内斜視①	第 18 週	大型弱視鏡 両眼視異常がある場合②
第 4 週	内斜視②	第 19 週	多目的の両眼視検査①
第 5 週	外斜視①	第 20 週	多目的の両眼視検査②
第 6 週	外斜視②	第 21 週	両眼視検査の実際
第 7 週	上下斜視（交代性上斜位 等）	第 22 週	両眼視検査の判定
第 8 週	回旋斜視・A-V 型斜視	第 23 週	AC/A 比復習
第 9 週	微小斜視	第 24 週	AC/A 比の検査①
第 10 週	斜視各論まとめ	第 25 週	AC/A 比の検査②
第 11 週	大型弱視鏡 器機の構造・測定原理・検査目的	第 26 週	AC/A 比の判定と斜視との関連
第 12 週	大型弱視鏡 両眼視機能検査の進め方①	第 27 週	斜視診断のための検査の進め方①
第 13 週	大型弱視鏡 両眼視機能検査の進め方②	第 28 週	斜視診断のための検査の進め方②
第 14 週	大型弱視鏡 両眼視機能検査の進め方③	第 29 週	斜視診断のための検査の進め方③
第 15 週	大型弱視鏡 検査の実際①	第 30 週	斜視診断のまとめ
成績評価方法	定期試験 100%		
教科書	視能矯正学 丸尾 敏夫 / 金原出版 視能学 丸尾 敏夫 / 文光堂		
参考書	授業で適宜指示、プリント配布		
備考			

科目名			担当者	
視能矯正学特論			二本柳 淳子 原口 翔太	常 勤 非 常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	大学併修等
3 年次・後期	講義	4 5 時間	必修 3 単位	

授業の目的 と 到達目標	<p>国家試験に合格するための知識の集大成を図る</p> <p>視能矯正学に必要な基礎知識を確認し、臨床でそれを発展させられるよう、理解を深める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚生理学、生理光学の基礎が理解できる ・両眼視機能と眼球運動が理解でき、その検査方法と検査データの見方がわかる ・屈折、調節に関する計算ができる <p>※視能訓練士の実務経験を持つ教員が、資格取得に向けた視能矯正学の講義を行う</p>
授業の概要 達成課題	<p>視覚生理学、生理光学の基礎を問題を解きながら解説、理解を深め定着させる。</p> <p>また、両眼視機能と眼球運動についても症例を通して検査の実際・データの見方について解説していく。国家試験と臨床実習をうまくリンクさせ、理解を深め国家試験合格を図る</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週	外眼筋の作用と眼球運動
第 2 週	両眼視の定義・成立条件と立体視
第 3 週	視覚生理学における光学・色覚・形態覚の基礎
第 4 週	〃 視野・両眼視・眼球運動
第 5 週	生理光学の基礎 光の性質・レンズ・プリズム
第 6 週	眼球光学
第 7 週	屈折・調節の異常と疾患
第 8 週	〃 検査法
第 9 週	〃 矯正（眼鏡・コンタクトレンズ・手術等）
第 10 週	主要眼疾患の基礎的知識とその治療（各部位ごとに）
第 11 週	〃 （斜視・弱視・眼球運動）
第 12 週	〃 （全身疾患と眼・心因性視覚障害）
第 13 週	神経眼的疾患とその検査
第 14 週	ロービジョンケアと失明予防
第 15 週	総合問題と解説
成績評価方法	定期試験 100%
教科書	<p>視能学 第3版：丸尾敏夫 他、文光堂、2022</p> <p>視能矯正学 第3版：丸尾敏夫 他、金原出版、2012</p> <p>屈折異常とその矯正 改訂第6版：所 敬 他、金原出版 2014</p>
参考書	授業の中で適宜指示
備考	

科目名			担当者	
薬 理 学			浅野 浩一	非 常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・前期	講義	30 時間	必修 2 単位	有

授業の目的 と 到達目標	視能訓練士として臨床で検査や治療に使用する薬剤の幅広い知識を得ることを目的とする。 薬理作用（主作用、副作用）、薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）等の基本的知識を学修する。眼科分野で用いられる散瞳薬、縮瞳薬、および抗感染症薬や緑内障治療薬等を中心に、各薬剤の有効性や副作用、および適応症について学修する。 *眼科医として実務経験のある教員が、薬理学について講義する。
授業の概要 達成 課 題	1. 薬物の薬理作用（主作用、副作用）、体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）等の基本的知識を理解する。 2. 眼科分野で用いられる散瞳薬、縮瞳薬、および抗感染症薬や緑内障治療薬等の有効性や副作用、および適応症について理解する。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週 薬理学のイントロダクション（眼科薬理学とは、医薬品の定義、薬物療法の目的） 第 2 週 自律神経系作用薬 1（副交感神経作動薬） 自律神経とは（復習から） 第 3 週 自律神経系作用薬 2（副交感神経遮断薬） 薬理作用と作用機序（主作用と副作用、薬物受容体） 第 4 週 自律神経系作用薬 3（交感神経作動薬） 薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄、半減期） 第 5 週 自律神経系作用薬 4（交感神経遮断薬） 自律神経薬のまとめ 第 6 週 薬物の適用方法（点眼、全身投与、相互作用） 第 7 週 薬物療法に影響を与える因子（老人、妊婦への投与、有害作用、薬害など） 第 8 週 薬事法令と医薬品の管理（薬機法、麻薬及び向精神薬取締法） 第 9 週 緑内障治療薬（自律神経系薬剤、プロスタグランジン誘導体等） 第 10 週 中枢神経系作用薬（麻酔薬、鎮痛薬、向精神薬の作用と副作用） 第 11 週 抗炎症薬（ステロイド性と非ステロイド抗炎症薬の作用と副作用） 第 12 週 ホルモン系作用薬（糖尿病薬、甲状腺機能障害薬） 第 13 週 循環器系、呼吸器系、消化器系作用薬の概略 第 14 週 抗感染症薬（抗生物質、抗ウイルス薬）消毒薬 第 15 週 点眼試験に用いる薬剤の概要	
成績評価方法	成績は定期試験の得点を基に評価する
教 科 書	「視能学 第3版」 小林 義治他 編 文光堂 「点眼薬クリニカルブック 第2版」 庄司 純編 金原出版
参 考 書	
備 考	スライドが見づらかったり、ノートが遅れてしまう時には、スマートフォンでスライドを写して、ノートしてもらっても構いません

科目名			担当者	
視能検査学Ⅲ			二本柳 淳子	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・前期	講義・演習	45 時間	必修 2 単位	有

授業の目的と到達目標	<p>生理光学・視能検査学Ⅰを基礎に、視力・屈折・調節検査の理解を深め、技術を習得する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特殊な視力検査についてその理論・方法が説明でき、実際に行うことができる。 ・調節の正常・異常が理解でき、その検査を実際に行うことができる。 ・検査結果を正確に矛盾なく導くことができる。 ・患者様に対し、わかりやすい説明やより快適な検査方法の工夫をすることができる。 <p>※視能訓練士として医療機関で実務経験のある教員が、視力・屈折検査、調節検査について実習を交えて講義する。</p>				
授業の概要 達成課題	<p>まず調節に関する用語・公式を理解するための講義を行い、理論に基づいた検査の施行を目指す。今まで学んだ視力・自覚的屈折検査の復習から、より高度な検査へと導く。基礎知識を確認しながら、応用的な技術を講義と実習形式で身に付ける。検査のやり方により、結果に違いが出てくることを体験することで、より理解を深め、臨床への意識を高める。</p>				
<p>【各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>第1週 本講義の目的（シラバス説明） 光学的基礎・視力・屈折検査の確認</p> <p>第2週 調節のしくみと異常</p> <p>第3週 調節検査①</p> <p>第4週 調節検査②</p> <p>第5週 実習①</p> <p>第6週 臨床での視力検査・自覚的屈折検査（他覚的屈折値の利用）</p> <p>第7週 〃 の評価（PH視力検査・両眼開放視力検査・二色テスト）</p> <p>第8週 実習②</p> <p>第9週 近見視力検査と屈折検査</p> <p>第10週 特殊な視力検査（ETDRS chart・縞視力・コントラスト視力）</p> <p>第11週 実習③</p> <p>第12週 心因性視能障害</p> <p>第13週 実習④</p> <p>第14週 実習考察</p> <p>第15週 まとめ 試験について</p> <p style="text-align: center;">（授業の進行状況により順番が変わります）</p>					
成績評価方法	<table border="0"> <tr> <td>・定期試験</td><td style="text-align: right;">80%</td></tr> <tr> <td>・レポート・実習記録</td><td style="text-align: right;">20%</td></tr> </table>	・定期試験	80%	・レポート・実習記録	20%
・定期試験	80%				
・レポート・実習記録	20%				
教科書	<p>視能学第3版/小林義治・松岡久美子・臼井千恵・岡真由美/文光堂</p> <p>眼科検査ガイド 第3版/根木昭・飯田知弘/文光堂</p>				
参考書	<p>屈折異常と眼鏡矯正/大鹿哲郎/中山書店</p> <p>理解を深めよう視力検査 屈折検査 / 松本富美子他 / 金原出版</p> <p>視能学エキスパート 光学・眼鏡 第2版/日本視能訓練士協会/ 医学書院</p>				
備考	<p>視力検査・自覚的屈折検査及び調節検査の最も臨床的かつ理論的に重要な部分の学びとなる。視覚機能の正確な診断のための知識を、実践を通し、自ら考えることで身につけて頂きたい。</p>				

科目名			担当者	
視能検査学Ⅳ			庄司正和	宇川雅晴
			佐々木知幸	佐藤かおり
			佐藤美智也	二本柳 淳子
			三浦 歌奈子	一迫詩織
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・前期	講義・演習	45 時間	必修 2 単位	有

授業の目的 と 到達目標	基礎視能矯正学における視覚生理学に基づき、視能検査学Ⅰ・Ⅱを踏まえ、視能障害学における眼疾患の診断、治療の基礎となる眼科検査の理論を学ぶ。 ・疾患の診断や治療に必要な検査の理論と方法を理解し、実施できる。 ・光学系・訓練系をのぞく眼科一般検査の適切な結果の求め方と結果の読み取りと診断方法を実習を通して身につける。 ※視能訓練士として医療機関で実務経験のある教員が、検査について実習を交えて講義する。		
授業の概要 達成課題	1 年次の授業を復習しながらまず検査の基礎を多方面から固める。その後、臨床で必要な疾患ごとに症状と結び付けた検査の理論を座学と実習で身に付ける。診断や治療の考え方を自分の頭で考えられるように導く。		
【各回のテーマ・内容・授業方法】			
第 1 週	本講義の目的（シラバス説明）、一般検査について（光学・弱視斜視以外の検査）		
第 2 週	生体反応と電気		
第 3 週	機器の取り扱いとメンテナンス		
第 4 週	白内障と術前・術後検査		
第 5 週	実習①（レフケラ・角膜形状解析・眼軸長・スペキュラー・コントラスト感度 等）		
第 6 週	〃		
第 7 週	眼底検査：造影検査・自発蛍光・広角撮影		
第 8 週	視野検査：GP で検出する異常視野		
第 9 週	実習②（散瞳眼底撮影・GP 使用の異常視野検査）		
第 10 週	〃		
第 11 週	視神経疾患の検査		
第 12 週	緑内障検査		
第 13 週	実習③（緑内障：OCT・視神経乳頭拡大撮影・ハンフリー・眼圧）		
第 14 週	〃（視神経：VEP・色覚（後天）・CFF）		
第 15 週	まとめ		
成績評価方法	・試験（各单元ごと） 90% ・レポート 10%		
教科書	視能学 第3版/小林義治・松岡久美子・臼井千恵・岡真由美/文光堂 眼科検査ガイド 第3版/根木昭・飯田知弘 他/文光堂		
参考書	視能学エキスパート 視能検査学 第2版/日本視能訓練士協会/医学書院		
備考	疾患の鑑別や治療に必要な検査の意味を理解するために自分の頭でしっかりと考え、検査結果を吟味する力を身につけるための授業である。		

科目名			担当者	
視能検査学実習 I			庄司 正和 他	常 勤 非 常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験
2 年次・後期	実習	45 時間	必修 1 単位	有

授業の目的 と 到達目標	<p>臨床実習に出るために必要な手技や知識を、実習を通して身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視力検査の理論と実際 ・自覚的屈折検査の理論と実際（放射線乱視表・クロスシリンダー） ・他覚的屈折検査の理論と実際（オートレフケラトメータ・検影法等） ・調節検査の理論と実際 ・レンズメータの実際 <p>※視能訓練士として医療機関で実務経験のある教員が視力検査・屈折検査等を指導する。</p>
授業の概要 達成課題	<p>2 年次前期までに学んだ検査手技を、相互実習を通じて習得する。実践面や患者接遇を重視し、臨床実習に備える。課題を通して自ら問題意識を持ち、正常・異常の判断及び検査に対する知識の定着を図る。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週	実習オリエンテーション
第 2 週	検影法講義（オーバースキア）
第 3 週	相互課題実習（視力検査・屈折検査）
第 4 週	相互課題実習
第 5 週	相互課題実習
第 6 週	相互課題実習
第 7 週	屈折検査 実習振り返り
第 8 週	調節検査講義 レンズメータ講義（遠近両用・プリズム）
第 9 週	相互課題実習（視力検査・屈折検査・調節検査）
第 10 週	相互課題実習
第 11 週	相互課題実習
第 12 週	相互課題実習
第 13 週	実技試験
第 14 週	実技試験
第 15 週	まとめ
成績評価方法※	<p>筆記試験（80%）、実技試験（20%）</p> <p>※筆記試験・実技試験ともに評価が 6 割を超えていることが合格の条件とする</p>
教科書	<p>視能学第 3 版/小林義治・松岡久美子・臼井千恵・岡真由美/文光堂</p> <p>眼科検査ガイド第 3 版/根木昭/文光堂</p>
参考書	授業で適宜指示
備考	

科目名			担当者	
視能検査学実習Ⅱ			三浦 歌奈子 他	常 勤 非 常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験
2 年次・後期	実習	45 時間	必修 1 単位	有

授業の目的 と 到達目標	<p>眼科一般検査（眼圧検査、眼底検査 等）、視野検査などの検査技術の向上と、検査結果の読み取りを身に付ける。また電気生理検査（ERG 等）の基礎知識と検査技術を習得する。</p> <p>検査と疾患の結びつきを強化し、必要な検査をあげることができるよう理解を深める。</p> <p>【主な検査の到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非接触眼圧計、アイケアの検査をスムーズに行い、精度をあげる。 ・眼底カメラ撮影では、固視誘導ができ、撮影したい部位を撮影したい画角で撮影できる。 また、アーチファクトへの対処ができる ・ゴールドマン視野検査では、正常視野の測定の検査時間の短縮をすることができる。 また、異常視野の測定法を身に付けることができる ・ハンフリー視野検査では、アーチファクトへの対処を学び、正確な結果を出すことができる ・ERGでは基礎知識を学び、検査の一連の流れを習得できる <p>※視能訓練士として実務経験のある教員が、実習・講義を通して検査技術を指導する。</p>
授業の概要 達成 課題	<p>講義・実習を通し、実践的な技法、患者接遇を学び、臨床実習に備える。また、鑑別に必要な検査の選択ができるよう、検査の目的・方法・判定および疾患と検査の結びつきの知識の定着を図る。</p>
<p>【各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>第 1 週 電気生理検査①</p> <p>第 2 週 電気生理検査②、実習目的・目標・課題 説明</p> <p>第 3 週 眼底検査・眼圧検査の復習（講義）</p> <p>第 4 週 相互課題実習</p> <p>第 5 週 静的視野検査（講義） アーチファクトの原因と対処法・検査プログラム</p> <p>第 6 週 相互課題実習</p> <p>第 7 週 動的視野検査（講義） 異常視野の測定方法・疾患と視野の関係</p> <p>第 8 週 相互課題実習</p> <p>第 9 週 相互課題実習</p> <p>第 10 週 症例検討①</p> <p>第 11 週 相互課題実習</p> <p>第 12 週 相互課題実習</p> <p>第 13 週 実技試験</p> <p>第 14 週 実技試験</p> <p>第 15 週 症例検討②、まとめ</p>	
成績評価方法※	<p>定期試験（80%）、実技試験（20%）</p> <p>※筆記試験・実技試験ともに 6 割を超えていることを合格の条件とする</p>
教 科 書	<p>視能学第 3 版/小林義治・松岡久美子・臼井千恵・岡真由美/文光堂</p> <p>眼科検査ガイド第 3 版/根木昭/文光堂</p>
参 考 書	授業で適宜指示
備 考	

科目名			担当者	
視能検査学特論			庄司 正和 他	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
3 年次・後期	講義	6 0 時間	必修 4 単位	有

授業の目的 と 到達目標	<p>国家試験に合格するための知識の集大成を図る</p> <p>視能訓練士になるために必要な検査学を総合的に深める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の検査の内容と方法が説明できる ・一般的眼科検査の基礎から応用までを理論的に理解し、問題が解ける ・国家試験合格レベルまで達することができる <p>※視能訓練士として臨床経験を持つ教員が、資格取得に向けた検査学について講義する。</p>
授業の概要 達成課題	<p>今まで学んだ検査学の知識をまとめながら深めていく。それぞれの検査や疾患との関連を意識させる講義を行い、国家試験で求められる実力を養成する。教科者を使い、より専門的な文章の読み書きに慣れさせ、理論的思考を促す。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週	医療面接の方法と診療録
第 2 週	医の倫理とインフォームドコンセント
第 3 週	視力検査と屈折検査（自覚的・他覚的）
第 4 週	レンズ
第 5 週	近見反応と調節・輻湊
第 6 週	視力検査と屈折検査 方法とデータの見方
第 7 週	〃 一般検査と特殊検査
第 8 週	視野検査と視覚路、色覚検査
第 9 週	視野検査（動的と静的検査）
第 10 週	前眼部・眼圧・隅角検査と関連疾患
第 11 週	眼底検査と画像診断
第 12 週	両眼視機能検査と眼位検査
第 13 週	眼球運動検査と臨床像
第 14 週	電気生理学的検査
第 15 週	眼薬理学
成績評価方法	定期試験 100%
教科書	<p>視能学 第3版：丸尾敏夫 他、文光堂、2022</p> <p>視能矯正学 第3版：丸尾敏夫 他、金原出版、2012</p> <p>屈折異常とその矯正 改訂第6版：所 敬 他、金原出版 2014</p> <p>眼科検査ガイド 第3版：根木 昭、文光堂、2022</p>
参考書	授業の中で適宜指示
備考	

科目名			担当者	
神経眼科学			高久 容一	非 常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験
2 年次・通年	講義	60 時間	必修 4 単位	有

授業の目的 と 到達目標	視能訓練士は、様々な視覚異常を有する患者の正確な検査と治療訓練が求められるので、眼疾患の基礎を1年次に学んだあと更に実際の視能矯正業務に必要な神経眼的疾患の理解を深める ・ 視覚にかかわる総合的な仕組みを理解する ・ 神経の相互支配を理解し障害と疾患を理解する ※臨床経験を持つ眼科医が非常勤講師として、『神経眼科』の専門科目を担当する。			
授業の概要 達成 課 題	・ 神経眼的疾患の症例を理解できる ・ 神経眼的疾患の検査・治療が理解できる			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
第 1 週	神経眼科の基礎	解剖と生理	第 16 週	外眼筋の生理
第 2 週	神経眼科の基礎	脳神経の解剖と生理	第 17 週	外眼筋の障害と疾患
第 3 週	神経眼科の基礎	脳血管 画像診断	第 18 週	外眼筋障害と症状
第 4 週	視覚入路	網膜の構造	第 19 週	核性疾患
第 5 週	視野		第 20 週	滑車神経障害
第 6 週	視野障害		第 21 週	筋無力症
第 7 週	疾患と視野異常		第 22 週	眼窩骨折
第 8 週	瞳孔の生理		第 23 週	核間麻痺
第 9 週	瞳孔の障害	入路障害	第 24 週	上方注視麻痺・輻輳麻痺
第 10 週	瞳孔の障害	RAPD 動眼神経麻痺	第 25 週	Duane 症候群
第 11 週	瞳孔の障害	瞳孔緊張症、 アーガイルロバートソン症候群	第 26 週	Brown 症候群
第 12 週	動向の障害	交感神経麻痺 ホルネル症候群	第 27 週	甲状腺眼症
第 13 週	瞳孔不同の鑑別		第 28 週	眼振
第 14 週	視神経疾患	うっ血乳頭他	第 29 週	眼球突出
第 15 週	視神経疾患	虚血性視神経症他	第 30 週	遺伝・遺伝性疾患
成績評価方法	期末試験 100%			
教 科 書	現代の眼科学 所 敬 / 金原出版			
参 考 書	授業で適宜指示、プリント配布			
備 考				

科目名			担当者	
ロービジョン学			二本柳淳子・阿部 直子・若山崇・ 金井 夕美絵・多田 大介	常 勤 非 常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・後期	講義・演習	30 時間	必修 1 単位	有

授業の目的 と 到達目標	<p>眼科的知識・検査法をふまえたロービジョンケアを理解し、方法を学び技術を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロービジョンの定義を説明できる。 ・身体障害者障害程度等級表を理解し、診断に必要な検査を行うことができる。 ・眼科におけるロービジョンサービスの概要を説明できる。 ・視覚補助具について使用方法を理解し、選択することができる。 ・ロービジョン者の気持ち・生活・立場を思いやることができる。 <p>＊ 視能訓練士としての臨床経験を持つ教員が主となり、現場でのロービジョンケアを多面的に教える。オムニバスで、視覚障害当事者、患者に関わる社会福祉士、歩行訓練士、視覚支援学校教員、眼科機器取り扱い業者が講師として参加する。</p>
授業の概要 達成課題	<p>まず、ロービジョンについて体験的に理解をする。そして、そのケアのために視能訓練士として必要な理論・方法・技術を習得する。現場でロービジョンケアに携わる歩行訓練士・社会福祉士・当事者から現状を知るとともに、自分なりの課題を得る。実習を交えながら学ぶことで、ロービジョン者を理解する姿勢を育てる。視覚補助具の種類と使い方を学び、ケアに役立てられるようにする。</p>
<p>【各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>第 1 週 本講義の目的（シラバス説明）/ロービジョンとは</p> <p>第 2 週 視覚障害体験 レポート提出 ①</p> <p>第 3 週 視覚障害とリハビリテーションの考え</p> <p>第 4 週 方</p> <p>第 5 週 視覚障害当事者から レポート提出 ②</p> <p>第 6 週 ロービジョンケアにおける視能訓練士の役割</p> <p>第 7 週 ロービジョンケアの実際/ロービジョンの原因疾患</p> <p>第 8 週 NPO 法人 アイサポート仙台の活動</p> <p>第 9 週 ロービジョン者の公的補助/身体障害者手帳</p> <p>第 10 週 視能訓練士のロービジョンケア ① ― 視機能評価</p> <p>第 11 週 視覚補助具について 光学的補助具・非光学的補助具・その他</p> <p>第 12 週 スマイルワン仙台の活動と視覚障害者の誘導及び介助/体験実習</p> <p>第 13 週 宮城県立視覚支援学校の教育活動・視覚障害者の職業自立と理療・点字の基礎</p> <p>第 14 週 視能訓練士のロービジョンケア ②</p> <p>第 15 週 視能訓練士のロービジョンケア ③</p> <p>本講義まとめ</p>	
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点(レポート・ボランティア) 20% ・定期試験 80%
教科書	<p>視能学第 3 版/小林義治他/文光堂/2022</p> <p>新しいロービジョンケア/加藤聡・山本修一・新井三樹/メジカルビュー社</p>
参考書	<p>私にもできるロービジョンハンドブック/新井三樹/メジカルビュー社</p> <p>ロービジョンの総合的リハビリテーション/田淵昭雄/自由企画出版</p>
備考	<p>ロービジョンを体験的に理解し、臨床の現場でどう対応していくかの基礎を作るため、積極的な授業参加と想像力の発揮を期待する。自分の考えをできる力をつけたい。国家試験にも必ず出題される分野なので、その意識も必要。</p>

科目名			担当者	
視能訓練学Ⅰ			佐藤 かおり	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	講義・演習	45時間	必修2単位	有

授業の目的 と 到達目標	<p>1年次後期で学んだ視能矯正学総論を基礎に、眼位・両眼視の理解を深め、技術を習得する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・眼位検査の種類、検査方法、診断方法を説明することができる ・固視状態を確認し、眼位の定性、定量を行うことができる ・両眼視機能について理解し、網膜対応異常および複視について説明することができる ・両眼視機能検査の種類・特性を理解し、検査し判定を正しく行うことができる <p>※視能訓練士として臨床経験のある教員が、視能矯正に関わる検査について講義・演習を行う</p>
授業の概要 達成課題	<p>初めに斜視の検査の基本である固視・眼位検査について学ぶ。特に遮閉試験では検査目的を理解し眼位の判定を行ない、技術習得を目指す。</p> <p>両眼視についてはその機能と異常の基礎をしっかりと身に付け、それぞれを説明できるようにする。また、検査では検査法の習得だけでなく、前半に行う眼位検査の結果と合わせての結果の判定を行い、説明できるように理解を深める。</p>
<p>【各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>第1週 オリエンテーション、総論の復習</p> <p>第2週 固視・固視検査</p> <p>第3週 眼位検査の種類・単眼性眼位検査（γ角について）・偽斜視</p> <p>第4週 プリズムについて・眼位検査（角膜反射法）</p> <p>第5週 遮閉試験①</p> <p>第6週 遮閉試験②</p> <p>第7週 遮閉試験③ 実習</p> <p>第8週 遮閉試験④ 実習・実技試験</p> <p>第9週 両眼視の基礎</p> <p>第10週 両眼視機能</p> <p>第11週 両眼視機能の異常①（網膜対応異常）</p> <p>第12週 両眼視機能の異常②（複視・抑制）</p> <p>第13週 両眼視機能検査の意義・種類</p> <p>第14週 立体視検査①</p> <p>第15週 立体視検査②</p>	
成績評価方法	試験 100%（実技試験、中間試験、定期試験の総合評価）
教科書	<p>視能学第3版/丸尾敏夫</p> <p>視能矯正学改訂第3版/丸尾敏夫</p>
参考書	<p>視能学エキスパート 視能訓練学</p> <p>他 授業の中で適宜指示します。プリント配布することもあります。</p>
備考	

科目名			担当者	
視能訓練学Ⅱ			佐藤 かおり	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	講義・演習	45 時間	必修 2 単位	有

授業の目的 と 到達目標	<p>眼球運動に必要な基礎知識とその異常についての知識を習得する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外眼筋、神経支配を解剖学的に理解し、外眼筋の作用を考え、説明することができる。 ・神経麻痺の場合の自覚的と他覚的所見を考え、説明することができる。 <p>各種眼球運動検査法を習得する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検査の種類および検査方法を知ることができる ・結果の評価、読み取りができる ・眼球運動神経麻痺において、典型的な結果を理解し説明できる <p>※視能訓練士として臨床経験のある教員が、眼球運動に関わる基礎・検査の講義・演習を行う</p>
授業の概要 達成課題	<p>まず、外眼筋の解剖を学び、作用をしっかり理解する。 次に外眼筋の作用を理解した上で、外眼筋麻痺における自覚症状、他覚所見を取り上げ、その1つ1つを説明できるようにする。 後半部では、まず眼球運動検査の流れを理解し、それぞれの検査の特徴、方法、結果について学ぶ。検査法だけでなく、結果の解釈も正確にできるようにする。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 全体のガイダンス / 眼球運動（役割、種類） 第2週 眼筋の解剖・作用 第3週 単眼眼球運動・法則 / 両眼眼球運動・法則 第4週 眼球運動経路とその障害 第5週 外眼筋麻痺の他覚所見 第6週 外眼筋麻痺の自覚症状 第7週 眼球運動検査の流れ、眼球運動の視診（むき、ひき）、輻湊運動、反射運動 第8週 Bielschowsky 頭部傾斜試験、Parks 3step test 第9週 Hess 赤緑試験 第10週 注視野（フェルステル視野計、ゴールドマン視野計） 第11週 9方向眼位の定量（プリズムカバーテスト、大型弱視鏡）① 第12週 〃 ② 第13週 牽引試験 第14週 眼球運動に関わる電気生理検査（EOG・EMG・ENG） 第15週 画像診断（X線・CT・MRI） / まとめ	
成績評価方法	筆記試験 100%（中間試験＋定期試験）
教科書	眼科検査ガイド 第3版：根本昭 他、文光堂、2022 視能学 第3版：丸尾敏夫 他、文光堂、2022 視能矯正学 第3版：丸尾敏夫 他、金原出版、2012
参考書	授業の中で適宜指示 プリント配布あり
備考	

科目名			担当者	
視能訓練学Ⅲ			三浦 歌奈子 二本柳 淳子	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次 ・ 前期	講義	15 時間	必修 1 単位	有

授業の目的 と 到達目標	<p>弱視の検査・診断・治療に必要な知識と技術を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚の発達と弱視の病態を理解し、説明できる。 ・個体の発達に応じた診断に必要な検査を選択し、実施できる。 ・弱視の治療法の説明ができ、各型に応じた選択ができる。 <p>※ 視能訓練士として医療機関での実務経験のある教員が、弱視とその検査、治療について講義する。</p>
授業の概要 達成課題	<p>まず視能矯正学総論で学んだ、正常な視覚の発達や弱視総論を復習しながら、より理解を深める。弱視の病態、各型を理解することで診断に必要な検査や治療、治癒判定について学び、実習に対応できる力をつける。また歴史的な治療法についても理解する。</p>
<p>【各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>第 1 週 本講義の目的（シラバス説明）、視覚生理学・総論の復習と確認</p> <p>第 2 週 視覚の発達と臨界期</p> <p>第 3 週 弱視とは～病態と分類</p> <p>第 4 週 弱視の原因（形態覚遮断・不同視・斜視）</p> <p>第 5 週 弱視の検査と診断 ①</p> <p>第 6 週 弱視の検査と診断 ②</p> <p>第 7 週 弱視の検査と診断 ③</p> <p>第 8 週 幼小児の検査と診断</p> <p>第 9 週 実習①</p> <p>第 10 週 弱視の治療①（考え方）</p> <p>第 11 週 弱視の治療②</p> <p>第 12 週 各型の治療①</p> <p>第 13 週 各型の治療②</p> <p>第 14 週 弱視の治癒判定</p> <p>第 15 週 本講義まとめ</p>	
成績評価方法	定期試験 100%
教科書	<p>視能学第 3 版/小林義治・松岡久美子・臼井千恵・岡真由美/文光堂/2022</p> <p>視能矯正学 改訂第 3 版/丸尾敏夫/金原出版/2012</p>
参考書	<p>視能学エキスパート 視能訓練学/日本視能訓練士協会/医学書院、視能学第 2 版</p> <p>小児の弱視と視機能発達/三木淳司・荒木俊介/三輪書店/2020</p>
備考	<p>・視能矯正の基本となる学びなので、予習・復習をしっかりと臨んでほしい。他の専門科目とも密接な関係があるので、ノートのととり方も工夫すること。教科書を必ず自力で読む習慣を身につけたい。配布プリントがある場合は卒業まで使用するつもりで保管する事。</p>

科目名			担当者	
視能訓練学Ⅳ			二本柳 淳子	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・後期	講義	15 時間	必修 1 単位	有

授業の目的 と 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・広義と狭義の視能矯正の概要を知り、正常な両眼視を獲得する方法（検査・診断・訓練）を理解する。 ・視能矯正に必要な視覚の発達とその検査について説明できる。 ・斜視、弱視における視能矯正法の種類、内容について説明でき、臨床で多く用いられる方法を実際に行うことができる。 <p>＊ 視能訓練士として臨床経験のある教員が、その主業務である視能矯正について講義する。</p>
授業の概要 達成課題	<p>まず視能矯正の基となる、視覚の発達から視覚生理学を復習し、検査・診断・治療法を通して視能矯正を理解する。その後狭義の視能矯正について、特に訓練を中心にその目的、内容を詳しく解説する。訓練について書かれた論文を読み解きながら、自ら視能矯正について考えることのできる力を育む。</p>
<p>【各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>第 1 週 本講義の内容とシラバス説明。視能矯正とは。基本的知識の復習。</p> <p>第 2 週 視覚の発達と臨界期</p> <p>第 3 週 幼小児の検査と診断</p> <p>第 4 週 弱視概論</p> <p>第 5 週 弱視の検査・診断</p> <p>第 6 週 〃 治療・訓練</p> <p>第 7 週 狭義の Pleoptics （実習 ①）</p> <p>第 8 週 斜視概論</p> <p>第 9 週 斜視の検査、診断、治療、訓練</p> <p>第 10 週 狭義の Orthoptics</p> <p>第 11 週 日常両眼視訓練と基礎両眼視訓練</p> <p>第 12 週 訓練の事例検討（論文抄読）</p> <p>第 13 週 後天性眼球運動訓練</p> <p>第 14 週 視能訓練実習（実習 ②）</p> <p>第 15 週 まとめ</p> <p>＊ 授業の進み具合によって内容が変更になることがあります。</p>	
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 90% ・提出物 10%
教科書	<p>視能学第 3 版/小林義治・松岡久美子・臼井千恵・岡真由美/文光堂/2022</p> <p>視能矯正学 改訂第 3 版/丸尾敏夫/金原出版/2012</p>
参考書	<p>視能学エキスパート 視能訓練学/日本視能訓練士協会/医学書院、視能学第 2 版</p>
備考	<p>視能訓練士の仕事として、主要な分野である。今まで学んできた知識を基に視能矯正が何であるか、先人の考えを学ぶとともに自分で考えてほしい。検査法、訓練法についてはその核となる考え方を身に着けるよう、理論を理解するよう努力してほしい。</p>

科目名			担当者	
視能訓練学実習 I			佐藤 かおり 他	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・後期	実習	4 5 時間	必修 1 単位	有

授業の目的 と 到達目標	眼位、両眼視機能検査、眼球運動検査法を習得し、結果の読み取りをする 各種検査法の目的を明確にし、結果を解釈することができる 検査をスムーズに行うことができる 麻痺がある場合の結果の予測、解釈をすることができる 症例にあわせた検査の選択ができる ※視能訓練士として臨床経験を持つ教員が視能矯正分野に関わる検査の指導を行う		
授業の概要 達成課題	講義最初に前期で学んだことの復習を行い、基礎知識の確認を行う。 その後の実習では、視能訓練学Ⅰ・Ⅱで学んだ眼位、両眼視機能検査、眼球運動検査の相互実習を行う。 検査手技を身につけると共に、それぞれの関連性を考えられるようにする。 また、臨床実習に向け検査態度、言葉遣いについても考え行動できるようにする		
【各回のテーマ・内容・授業方法】			
第 1 週 全体のガイダンス・ AC/A比①			
第 2 週 AC/A比②			
第 3 週 眼位検査（遮閉試験・大型弱視鏡）・眼球運動検査（視診、Hess、注視野）			
第 4 週 相互実習（AC/A比・眼球運動検査）・演習課題（眼球運動）			
第 5 週 ”			
第 6 週 網膜対応検査①			
第 7 週 ” ②			
第 8 週 抑制検査			
第 9 週 相互実習（立体視検査・9方向眼位の定量） 眼位検査実技チェック			
第10週 ”			
第11週 相互実習（網膜対応検査・眼位検査）			
第12週 ”			
第13週 自覚的斜視角の測定・回旋偏位の測定			
第14週 多目的両眼視機能検査			
第15週 プリズム順応検査・まとめ			
成績評価方法	定期試験	80%	*筆記、実技 両者とも6割超えていることが合格条件
	実技試験	20%	
教科書	視能学第3版/丸尾敏夫、視能矯正学改訂第3版/丸尾敏夫 眼科検査ガイド第3版/根木昭/文光堂		
参考書			
備考			

科目名			担当者	
視能訓練学実習Ⅱ			佐藤 かおり	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験
2 年次・後期	実習	4 5 時間	必修 1 単位	有

授業の目的 と 到達目標	<p>神経眼科に関わる検査を習得し、疾患と関連付けて判定することができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾患に応じた外眼部検査を実施することができる ・瞳孔検査、中心フリッカー等 視神経疾患に関わる検査の習得をする ・輻湊・開散について理解し、関連の検査法を行い、結果を検討することができる ・眼振の検査法・治療法を理解する <p>斜視の治療（プリズム療法、薬物療法、手術療法 等）を理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・斜視のプリズム療法（合成、偏心）について理解する ・薬物療法ではボツリヌス治療を主に理解する ・斜視手術の術式を理解する <p>※視能訓練士として臨床経験のある教員が、神経眼科検査及び斜視治療の講義・実習を行う</p>
授業の概要 達成課題	<p>視能訓練学Ⅱで学んだ基礎をふまえ、輻湊・開散の検査・障害について理解を深める。</p> <p>眼瞼・眼窩疾患を理解し、外眼部検査を行うことができるようにする。</p> <p>瞳孔に関係する神経経路を知り、検査法を学び、結果の判定を行うことができるようにする。</p> <p>外眼筋の作用を復習し、A-V型斜視の原因、治療の考え方を説明できるようにする</p> <p>斜視治療の中でもプリズム療法、薬物、手術療法について学び、臨床実習、国家試験に向けて基礎を身につける。</p> <p>眼振の基礎を理解し、検査・治療の知識をつける</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週	全体ガイダンス / 輻湊・開散の復習
第 2 週	輻湊の単位・輻湊検査
第 3 週	輻湊・開散の障害
第 4 週	眼瞼下垂・眼球突出
第 5 週	外眼部検査（瞼裂幅測定、眼瞼挙筋機能検査、眼球突出度検査）
第 6 週	視神経疾患の鑑別診断
第 7 週	瞳孔検査
第 8 週	瞳孔異常
第 9 週	斜視の治療（薬物療法・プリズム療法）
第 10 週	斜視の治療（手術①）＊A-V 型斜視の復習
第 11 週	斜視の治療（手術②）
第 12 週	斜視の治療（手術③）
第 13 週	眼振の病態
第 14 週	眼振の検査
第 15 週	眼振の治療
成績評価方法	筆記試験 100%
教科書	<p>眼科検査ガイド第3版/根木昭/文光堂</p> <p>視能学 第3版：丸尾敏夫 他、文光堂、2022</p> <p>視能矯正学 第3版：丸尾敏夫 他、金原出版、2012</p>
参考書	授業の中で適宜指示 プリント配布あり
備考	

科目名			担当者	
視能訓練学特論			佐藤 かおり 他	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
3 年次・後期	講義	6 0 時間	必修 4 単位	有

授業の目的 と 到達目標	<p>国家試験に合格するための知識の集大成を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弱視斜視分野の基礎から臨床的应用までを理解する ・重要な点を総合的な問題を解く力をつけるための講義で再確認し、定着させる ・問題解決で合格ラインに到達する <p>※視能訓練士として臨床経験を持つ教員が、資格取得に向けた訓練学について講義する。</p>
授業の概要 達 成 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・弱視斜視の成因、種類についての講義と基礎問題の解説 ・弱視斜視の診断、治療、両眼視訓練の講義と基礎問題の解説 ・弱視斜視の臨床症例の診断から治癒までの総合的な講義と応用問題の解説
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週	小児の視力発達、弱視の定義、原因、病態、弱視の種類
第 2 週	弱視の検査（屈折検査、眼位検査、固視検査）
第 3 週	弱視の治療（プレオプティクス、屈折矯正、遮閉法）
第 4 週	弱視の治療（ペナリゼーション、その他の訓練法）
第 5 週	斜視総論（共同性・非共同性斜視、偽斜視、斜視の種類）
第 6 週	斜視の検査（眼位、眼位検査）
第 7 週	AC/A 比、AC/A 比検査
第 8 週	両眼視機能
第 9 週	両眼視検査（立体視、立体視検査）
第 10 週	両眼視検査（網膜対応、網膜対応検査）
第 11 週	大型弱視鏡検査
第 12 週	融像検査（プリズム融像幅、4∠BOT）
第 13 週	総合問題・解説
第 14 週	〃
第 15 週	〃
成績評価方法	定期試験 100%
教 科 書	<p>視能学 第3版：丸尾敏夫 他、文光堂、2022</p> <p>視能矯正学 第3版：丸尾敏夫 他、金原出版、2012</p>
参 考 書	視能学エキスパート 視能訓練学 若山暁美 他 医学書院 2018 他
備 考	

科目名			担当者	
視能臨床実習 I			二本柳 淳子 他	常勤・非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
3年次・前期	講義	3 1 5 時間	必修 7 単位	有

授業の目的 と 到達目標	<p>学内実習で習得した検査及び視能矯正を実習施設（臨床現場）で学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視能訓練士として基本的な態度を習得し、専門職としての資質の向上と充実を図る。 ・学校で学んだ知識・検査技術の臨床での確認と向上を図る。 ・患者の心理を理解し、その接し方を習得する。 ・検査結果を読み取り、疾患に対する総合的理解を深める。 ・他の医療関係職を理解し、医療チームの一員としての役割と責任を学び、コミュニケーション力を身に付ける。 <p>※5年以上の臨床経験を持つ教員が、実習指導を行う</p>
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の実習で学んだ内容を日誌にまとめ、実習内容の再確認や補完、疑問点の解決を図る。 ・患者の訴えから検査・診断・治療を通して、眼科診療の実際を知り、疾患を理解する。 ・患者1人1人に合わせた対応、工夫を学び、検査・訓練の技術を身につける。
<p>【各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>2024/6/3 ～2024/7/27 の間の 315 時間 (各実習施設の計画による)</p>	
成績評価方法	実習評価表の判定基準に基づく
教科書	
参考書	<p>視能学 第3版：丸尾敏夫 他、文光堂、2022</p> <p>視能矯正学 第3版：丸尾敏夫 他、金原出版、2012</p> <p>視能検査ガイド 第2版：根本 昭、文光堂、2016</p> <p>屈折異常とその矯正 改訂第6版：所 敬 他、金原出版 2014 等</p>
備考	

科目名			担当者	
視能臨床実習Ⅱ			二本柳 淳子 他	常勤・非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
3年次・前期	講義	315時間	必修 7単位	有

授業の目的 と 到達目標	視能臨床実習Ⅰを踏まえた、よりレベルの高い検査及び視能矯正を実習施設で学ぶ。 ・視能訓練士として基本的な態度を習得し、専門職としての資質の向上と充実を図る。 ・学校と前期実習で学んだ知識・検査技術をもとに臨床での実施の具体的方法を習得する。 ・患者の心理を理解し、その接し方を習得する。 ・疾患に対する総合的理解を深め、症例検討できる力を養う。 ・他の医療関係職との相互理解、臨床現場での連携の実践を学ぶ。 ※視能訓練士として5年以上の臨床経験を持つ教員が、実習指導を行う
授業の概要 達成課題	・日々の実習で学んだ内容を日誌にまとめ、実習内容の再確認や補完、疑問点の解決を図る。 ・患者の訴えから検査・診断・治療を通して、眼科診療の実際を知り、疾患を理解する。 ・患者1人1人に合わせた対応、工夫を学び、検査・訓練の技術を身につける。 ・臨床で得た課題や学んだことから視能訓練士としての自分の将来像を考える。
【各回のテーマ・内容・授業方法】 2024/8/1～2024/9/28の間の315時間 (各実習施設の計画による)	
成績評価方法	実習評価表の判定基準に基づく
教科書	
参考書	視能学 第3版：丸尾敏夫 他、文光堂、2022 視能矯正学 第3版：丸尾敏夫 他、金原出版、2012 視能検査ガイド 第2版：根本 昭、文光堂、2016 屈折異常とその矯正 改訂第6版：所 敬 他、金原出版 2014 等
備考	

科目名			担当者	
臨床実習セミナー			二本柳淳子・佐藤かおり 佐藤美智也・相澤洋子 他	常 勤 非 常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
3 年次・通年	講義	30 時間	必修 2 単位	有

授業の目的 と 到達目標	<p>視能臨床実習Ⅰ・Ⅱに当たり、眼科検査に必要な知識と技術の総復習をするとともに、他業種との連携や患者接遇力を向上させる。また最新の知見、技術、機器に触れる機会を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨床実習の現場で必要となる知識、技術と研究方法を理解し身に着ける。 体の不自由な方への介助・誘導、検査の工夫ができる。 医療機器の扱い、メンテナンス方法がわかる。 <p>※医療現場での実務経験のある視能訓練士、看護師、医療機器修理責任技術者などが実践的指導を行う。</p>
授業の概要 達成課題	<p>まず、臨床実習での目標・課題をまとめる。実習に当たり、不足している知識、学んでおきたいことを多面的に考え、準備する。通常の授業では学べない、身体に障害のある方への介助法、清潔不潔について、医療機器のメンテナンス等それぞれのエキスパートからその実践的なノウハウについて学ぶ。</p> <p>視能臨床実習Ⅰ・Ⅱにおける症例報告の研究法、考え方、実習後のまとめまでを継続的に学び、発表会を行なうことで、学習内容を共有する。</p>
<p>【各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>第 1 週 見学実習の報告・内容について検討</p> <p>第 2 週 臨床でみられる症例</p> <p>第 3 週 臨床で注意すべき症</p> <p>第 4 週 例</p> <p>第 5 週 症例データのまとめ方</p> <p>第 6 週 症例報告の書き方</p> <p>第 7 週 実習日誌の書き方</p> <p>第 8 週 医療機器の取り扱いとメンテナンス</p> <p>第 9 週 体の不自由な方の検査①</p> <p>第 10 週 〃 ②</p> <p>第 11 週 病院における清潔、不潔</p> <p>第 12 週 臨床での事例検討</p> <p>第 13 週 症例報告作成</p> <p>第 14 週 症例報告作成</p> <p>第 15 週 症例報告発表</p> <p>症例報告発表・実習のまとめ</p>	
成績評価方法	見学実習報告・症例報告発表等で評価
教科書	視能学 第3版/小林義治・松岡久美子・臼井千恵 他/文光堂/2022 現代の眼科学 所敬/金原出版 眼科検査ガイド第3版/文光堂
参考書	視能矯正マニュアル 丸尾敏夫/メディカル葵出版 エッセンシャル眼科学 丸尾敏夫/医歯薬出版 視能検査学/医学書院 視能訓練学/医学書院
備考	

科目名			担当者	
実用国語			小島 郁子	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
3 年次・通年	演習	30 時間	必修 1 単位	無

授業の目的 と 到達目標	<p>病院実習や就職に備え、ビジネス常識やマナー・接遇、履歴書やお礼状の書き方、面接や職場での言葉遣いなどを学び、社会人としての知識や教養を身につける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的なマナーを理解し、場面に応じて振る舞うことができる ・ 履歴書やお礼状を書くことができる ・ 面接時に適切な立ち振る舞いや、言葉遣いをすることができる
授業の概要 達成課題	<p>毎回の授業のはじめに、就職試験に良く出る漢字のテストを行う。 電話のかけ方や面接の練習、就職試験対策等を実習や就職の時期に合わせて行う。</p>
<p>【各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>第 1 週 漢字読み書き、ビジネスマナー</p> <p>第 2 週 漢字読み書き、電話のかけ方、</p> <p>第 3 週 漢字読み書き、敬語、言葉遣い、報告連絡相談</p> <p>第 4 週 漢字読み書き、自己分析と履歴書</p> <p>第 5 週 漢字読み書き、お礼状の書き方 1、履歴書</p> <p>第 6 週 漢字読み書き、お礼状の書き方 2、履歴書</p> <p>第 7 週 漢字読み書き、面接試験のポイント</p> <p>第 8 週 漢字読み書き、面接練習 1</p> <p>第 9 週 漢字読み書き、面接練習 2、作文・小論文の書き方</p> <p>第 10 週 漢字読み書き、面接練習 3、一般常識問題</p> <p>第 11 週 漢字読み書き、面接練習 4、適性検査問題</p> <p>第 12 週 漢字読み書き、面接練習 5、適性検査問題</p> <p>第 13 週 漢字読み書き、面接練習 6、適性検査問題</p> <p>第 14 週 漢字読み書き、グループワーク</p> <p>第 15 週 漢字読み書き、まとめ</p>	
成績評価方法	後期終了時にテストを行う。
教科書	なし
参考書	なし。プリントを配付する。
備考	分からないときにそのままにせず、調べる癖をつけて欲しい。辞書や電子辞書、人に聞く等の手段を講じること。

科目名			担当者	
秘書実務講座			北館 英里	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・前期	演習	30 時間	必修 1 単位	無

授業の目的 と 到達目標	<p>「目的」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人として必要な一般常識、マナーを理解する。 ・社会で必要とされる人材の資質を理解させ、学生から社会人へと意識の切り替えを促す。 <p>「目標」</p> <p>秘書検定 3 級または 2 級を取得する。</p>
授業の概要 達成課題	<p>社会人として必要なビジネスマナーを学生のうちに学び日常生活に取り入れていく。</p> <p>実際にスーツを着用した動作練習や電話応対を行い、接遇に必要な立居振舞いや来客応対などに必要な言動を体得する。</p>
<p>【各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>第 1 週 秘書検定について 今後の予定 教科書：必要とされる資質、職務知識</p> <p>第 2 週 振り返りテスト解答 合格基準の説明 教科書：一般知識</p> <p>第 3 週 一般知識プリント解答 敬語①</p> <p>第 4 週 敬語②</p> <p>第 5 週 マナー接遇前半</p> <p>第 6 週 マナー接遇後半</p> <p>第 7 週 技能 会議と文書とグラフ</p> <p>第 8 週 技能 後半</p> <p>第 9 週 記述問題対策</p> <p>第 10 週 過去問題演習</p> <p>第 11 週 過去問題演習</p> <p>第 12 週 基本動作練習、立居振舞い 【スーツ登校】</p> <p>第 13 週 電話応対 基礎</p> <p>第 14 週 電話応対 応用</p> <p>第 15 週 手紙・お礼状の書き方</p>	
成績評価方法	期末試験（100%）
教科書	「秘書検定 2 級クイックマスター」財団法人実務技能検定協会
参考書	
備考	